

国際医療ボランティアAMDA(岡山市北区伊福町)の活動に専念するため、菅波茂代表(63)が6月末で医療法人理事長を退いた。大

地震や津波の被災地など世界各地で緊急救援や復興支援を行うAMDAの今後の取り組みや、将来の展望について聞いた。(伊丹友香)

AMDA活動専念する菅波代表に聞く

AMDAの活動に専念する理由は、

まずは現場へ足を運

地域、国際貢献に取り組んできたが、地域

貢献については医療法人や地元医師会活動を

通じて一定の成果を出

せたと思っている。一

方でAMDAはまだ発

展中だ。今後は岡山発

の国際貢献に全力で尽

くしたい。

医師の仕事も、AM

DAの活動も命がかか

っている。その両方に

同じように責任を持つ

のは難しい。医療法人

の責任者と診療医とい

う立場では、10日以上

の出張は難しく、なか

なか被災地へ出向くこ

とができず、もどかし

い思いもあった。

AMDA代表とし

AMDAの活動に専念し、将来展望を語る菅波代表

や中南米などには強い

ネットワークを築けた

が、中央アジアや中近

東などではまだまだ。

今年中にモンゴルやト

ルコなどへ出向いて可

能性を探りたい。

もう一つは「市民参

加型人道支援外交」の

実現だ。これまで人道

支援は専門家が言い、

市民は募金など間接的

なかわりにとどまっ

ていた。これからは市

民が直接参加する時

代。実際に活動するこ

とで国際貢献への満足

度は一段と高まる。寄

付も使い道を指定して

い。

将来的にはスポーツ

を通じて被災者の心の

具体的な構想は。

現在、ハイチ大地震

の被災地を進めている

復興支援プロジェクト

では、スポーツを通じ

た市民参加のプログラ

ムを計画している。今

夏、岡山、大阪などの

中学生を現地へ派遣

し、サッカーなどで現

地の子どもたちと交流

する予定。1回限りで

なく、長く励まし合う

関係をつくってほし

い。

将来的にはスポーツ

を通じて被災者の心の

ケアに専門的に取り組

む組織「AMDAスポ

ーツ夢機構」を立ち上

げ、継続的に活動した

い。5年以内にその基

ネットワーク拡大へ力

て重点的に取り組む課題の充実とネットワークの拡大だ。「救えも」のスローガンで活動したり、自分たちが手渡してもらえようとしている。東アジアで手渡してもらえようとしている。